B１１ 初級～ （PC 実習あり）	欧米特許情報検索手法の実際 米国・欧州特許庁データベースの検索方法 特許庁データベースと商用データベース概論と比較
講　師	都築　泉（桃山学院大学　非常勤講師、元 大阪工業大学 知的財産研究科 准教授）
日　程	東京会場 9 月 18 日（水） 大阪会場 ※開催中止　2020 年 2 月 20 日（木）
時　間	1 日間（10:00～16:00）// 昼休憩 11:45～12:45
アクセス	http://www.jpds.co.jp/company/access.html
定　員	東京会場：24 名　//　大阪会場：16 名　（先着順申し込み）
受講料（税別）	20,000 円
対　象	特許調査担当の初級から中級者

内　容

多くの製品開発や販売活動おいて米国・欧州は依然大きな地位を占めています。そのため、米国・欧州の特許調査は重要ですが､各国特許庁データベースや商用データベースを駆使した海外特許情報検索は簡単とはいかないのも現実です。そのような現実を踏まえ、海外特許情報データベースを熟知した講師が、米国・欧州特許庁データベースを体系的に解説し、それぞれの検索方法とそのコツ、特許分類の調査方法や利用例、さらに商用データベースとの比較についてお伝えします。海外特許調査はこれからという方に最適です。

プログラム

1．欧州特許庁（Espacenet）データベースによる欧州特許調査－Part1
- 用語検索、Smart サーチ、高度の検索、　全文検索、近接演算、パテントファミリー、Espacenet における特許分類

2．欧州特許庁（Espacenet）データベース による欧州特許調査－Part2
- 欧米特許共通分類(CPC)の調査方法と利用

3．米国特許商標庁（USPTO）データベースによる米国特許調査
- 用語検索、引用情報、関連出願、法的状況調査、欧米特許共通分類（CPC)、の利用、米国特許分類(USPC)

4．世界知的所有権機関（WIPO）の提供するデータベース（PATENTSCOPE）
- 収録国の広がり､種々の検索画面､多言語検索､検索画面、検索結果の分析表示、化合物検索

5．商用データベースで提供される海外特許情報

6．商用データベースと無料の情報源との使い分け

【申込み】

当社ホームページよりお申し込みください。　URL: http://www.jpds.co.jp/seminar/application.html

【備考】

- 欧州、米国特許商標庁のデータベースへのアクセス実習を予定しております。（ＰＣは当社にてご用意いたします。）
- セミナーご参加の方で事前にご質問や特に説明をお聞きになりたい内容がございましたらお申出下さい。セミナー当日に可能な限りお答えさせていただきます。

【日本弁理士会継続研修について】

本研修は、日本弁理士会の継続研修としての認定を申請中です。本研修を受講し、所定の申請をすると、外部機関研修として単位が認められる場合があります。